ケース 13　元祖「坊っちゃん団子」物語

キーワード：地域の銘菓　商品開発　知的財産権　経営理念

1　学習内容

地域を代表する銘菓の歴史と地域に根ざした企業の取組

2　学習目標

地域を代表する銘菓の歴史と地域に根ざした企業の取組について理解するとともに、現在と今後の課題とその解決策について考察する。

3　学習指導要領において対応する科目、単元および学習内容

「ビジネス基礎」

⑸　企業活動の基礎

ア　企業の形態と経営組織

企業の形態と経営組織の種類と特徴について理解させる。また、起業家精神、ビジネスの創造及び経営理念の重要性についても理解させる。

「課題研究」

⑴　調査、研究、実験

商業科に関する科目の内容に関連した調査、研究、実験の取組が考えられる。ビジネス経済分野については、産業構造の変化や経済の国際化、観光や地域産業の振興に関する内容を主とした調査や研究などの例が考えられる。

「商品開発」

⑴　商品と商品開発

イ　商品開発の意義と手順

商品開発の意義及び商品のライフサイクルについて理解させる。また、商品開発の手順と考え方について、商品開発の具体的な事例を取り上げて理解させる。さらに、商品開発や商品の流通における法令遵守などの社会的責任及び販売後の商品の評価とそれに基づいて商品の改良を行うことの重要性について理解させる。

4　評価の観点

・地域の銘菓について理解している。【知識・理解】

・観光客だけでなく、地域からも愛される商品や企業であるために必要な要素について、自らの考えを述べることができる。【思考・判断・表現】

事例　ケース 13　元祖「坊っちゃん団子」物語

本日は、「坊っちゃん団子」の元祖「つぼや菓子舗」さんにインタビューを行いたいと思います。「つぼや」さん、よろしくお願いします。

Q.「坊っちゃん団子」は、どのようにして誕生したのか教えてください。

明治 16 年創業当時の「つぼや」（当時の屋号「茶屋又」）は、店先で団子（「湯晒（ゆざらし）団子」という名前のあんころもち）をお茶と一緒に提供していました。道後温泉本館が完成した翌年の明治 28 年、松山中学に赴任した夏目漱石は、温泉と当店の団子がお気に入りだったようです。小説『坊っちゃん』の中に「おれのはいった団子屋は遊郭の入口にあって大変うまいという評判だから、温泉の帰りがけにちょっと食ってみた」とありますが、「つぼや」の初代相原吉五郎が、ちょうどその「遊郭の入口」で商いをしていました。

小説が世に出たのは明治の終わりの頃で、その小説を読んだ「つぼや」二代目相原宇太郎が、「うちの店が小説に載っている」ということで、小説『坊っちゃん』にちなんで「坊っちゃん団子」を考案しました。それが大正 10 年頃と聞いています。

Q.「坊っちゃん団子」が完成するまでに、どのような御苦労がありましたか？

まず、「湯晒団子」は中が上新粉（うるち米由来）でできたお餅なので、一日で固くなります。そこで、中の餅を求肥（もち米由来のもち粉）にすることで、固くならずに次の日も食べることができるようになりました。

次に、その「湯晒団子」の色合いをカラフルにしようと考え、あんを和菓子の基本である黄身あん、抹茶あん、小豆あんの三種類にしました。そして、それらを食べやすいようにくしに刺して「坊っちゃん団子」が完成しました。

二代目相原宇太郎はアイディアマンで働き者だったようです。朝が早く、あんを炊く火を起こそうと、夜明け前から火種を持って仕事場に入っていたと聞いています。

Q．商品の紹介をしてください。

「坊っちゃん団子」は、北海道産小豆（単一品種）100％と、白あん用には北海道産大手亡豆（おおてぼうまめ）100％、抹茶は宇治のものを使用、などと材料にこだわり、小ロットで作っています。

漱石の食べた「湯晒団子」は、上新粉の団子を小豆こしあんでまぶした素朴な団子となっています。

Q．販売戦略・営業努力について聞かせてください。

一子相伝、家内制手工業生産の同族企業で経営しています。経営を拡大するつもりもありませんし、代々続いていけたらいいという考えで日々作っています。凝った商品よりも良い材料を使って、それを生かせるようなシンプルな商品を御提供したいと思っています。味を落とさず、材料の品質を下げず、お客様の声に耳を傾けることで、何度も足を運んでいただけるような店でありたいと考えています。

Q．現在の課題・今後の展望について聞かせてください。

「坊っちゃん団子」は、戦後、松山名物として広く知られるようになりました。三代目相原道太郎の頃です。現在は観光土産品として、松山市内の和菓子店の３分の２の店舗が「坊っちゃん団子」を作っています。ＣＭの影響などで、他社の「団子」しかご存じない方が、松山市内にも大勢いらっしゃいます。しかし、「『つぼや』の『坊っちゃん団子』でなければいかん！」と、わざわざ道後までお越しいただけるお客様もたくさんいらっしゃいます。「坊っちゃん団子」の味を守っていくことが、「坊っちゃん団子」の元祖としての私たちの使命だと感じています。

また、道後温泉本館の改修工事中には観光客が減少し、売り上げが落ち込むことが懸念されています。観光客に依存しがちな経営から、より一層地元のお客様に愛されるような経営に移っていかなければならないと感じています。

「つぼや菓子舗」さん、本日はありがとうございました。

（取材協力）　「つぼや菓子舗」
愛媛県松山市道後湯之町 14-23
市内電車「道後温泉駅」下車のち道後商店街内を北へ徒歩３分で左側

2016/6/24 資料作成

ワークシート

ケース 13　元祖「坊っちゃん団子」物語

（　　）年（　　）組（　　）番　氏名（　　）

1　「坊っちゃん団子」が誕生した要因について述べなさい。　【思考・判断・表現】

2　「坊っちゃん団子」がなぜ今日のように地域を代表する銘菓になったのか、その理由を述べなさい。　【知識・理解】

3　知的財産権（特許権・商標権・意匠権など）について調べ、本事例と関連させて各自の考えを述べなさい。　【思考・判断・表現】

4　観光客だけでなく、地域からも愛される商品や企業であるために必要なことはどのようなことか、各自の考えを述べなさい。　【思考・判断・表現】

ワークシート　解答例

ケース 13　元祖「坊っちゃん団子」物語

（　　）年（　　）組（　　）番　氏名（　　）

1　「坊っちゃん団子」が誕生した要因について述べなさい。　【思考・判断・表現】

アイディアを持ち仕事に熱心だった二代目相原宇太郎の存在
新しいものをつくり出すにはアイディアと情熱が必要不可欠

2　「坊っちゃん団子」がなぜ今日のように地域を代表する銘菓になったのか、その理由を述べなさい。　【知識・理解】

味が良かったから
アイディアが斬新であったから
小説の影響　などについて適切に述べられている。

3　知的財産権（特許権・商標権・意匠権など）について調べ、本事例と関連させて各自の考えを述べなさい。　【思考・判断・表現】

①知的財産権について調べたことが述べられている。
②「つぼや」が何らかの権利を取得していた場合、今日のように「坊っちゃん団子」が広まり、知名度が高まっていただろうか？反対に、「つぼや」が現在のような一子相伝で味を守ることができていただろうか？
などについて、各自の考えを述べることができている。

4　観光客だけでなく、地域からも愛される商品や企業であるために必要なことはどのようなことか、各自の考えを述べなさい。　【思考・判断・表現】

各自の考えを述べることができている。
※　広告宣伝方法について
　　新商品の開発について　など